

# 春の暖

しゅんだん

寒く厳しい冬を乗り越え、迎えた暖かな春への喜びと心地よさを届けることができる美しい言葉。桜の蕾が膨らんでくる時期から開花までの時期によく使われます。



暖冬と言われ、寒さで痛い思いをした記憶も少なかったなど、冬の終わりに振り返ります。比較的に温かな気温が続き、例年に比べて「ねぎ坊主」も早々に動き出しているなど畑や工場で手に触れるねぎから感じられます。

## 今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

### 秋頃にせっせと定植した頃を思い出す冬葱たち

昨年10月頃に定植を行った、亀岡市・京都市の畑で育った冬葱。1～2月の寒い時期は、「冬が旬」と言われるねぎも底冷えの寒さでほとんど成長しない為、10月の中旬頃までに定植を完了させる必要があります。畝立て・定植と1年間の中でも最も忙しい時期に定植していました。農人一同の頑張りもあり、今年も無事に3月のお届けに間に合わせる事ができました。この時期は、夏場のピリッと辛みのあるねぎとは一味違う、甘みのあるねぎに育っていますので、ご賞味ください。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信

## 今年のあたたかな自然環境に合わせて

今年は暖冬の影響もあり、寒い日や雪の降る日もあったものの、比較的育ちやすい環境下だったかもしれません。寒さ対策で行っているビニール被覆は、温度と共に湿度も上がりやすく、例年以上に病気などの発生リスクも多く、農人たちは日々ねぎの品質維持に努めています。また、気温が高めの日が続いているので、例年よりも早めにビニールの被覆を回収し、季節やねぎに合わせて農人一同協力して作業を進めました。春の季節は、6月頃の収穫に向けて、今年1番目の定植が始まり、各地域共に本格的に畑作業が動き出します。農閑期で比較的時間にゆとりのあった冬も終わり、農人たちも慌ただしい日々が戻ってきます。坊主は暖冬の影響もあり、例年よりも早く出だしているように感じています。できる限り、坊主のあがり遅くできるよう、肥料切れが起きないようにと、追肥（葉面散布）での管理を行っています。

とある日の農人日記。

生育調査をはじめ一人でやりました。病虫害を早期発見する為にはここで見極めなければならないので、もっと病虫害についての知識が必要だと思いました。畑の巡回ルートを最適化して工夫したいと思いました。（市内班・野村）



毎冬に活躍しているビニールの被覆のおふとんに付いている留具一つずつ外して手分けして回収していきました。

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます  
ことねぎだより

NO.202

2024年3月号

TEL: 075-601-0668



KOTO GROUP



こと京都は「野菜を食べてよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組めます。